・畦地 梅太郎（あぜち・うめたろう，1902－1999）版画家
・池田 満寿夫（いけだ・ますお，1934－1997）版画家，作家，映画監督
・恩地 孝四郎（おんち・こうしろう，1891－1955）版画家，詩人，装本家
・梶山 俊夫（かじやま・としお，1935－2015）絵本作家
・川上 澄生（かわかみ・すみお，1895－1972）版画家
・小林 ドンゲ（こばやし・どんげ，1926－）銅版画家
・斎藤 清（さいとう・きよし，1907－1997）版画家
・関野 準一郎（せきの・じゅんいちろう，1914－1988）版画家
・芹沢 銈介（せりざわ・けいすけ，1895－1984）染色工芸家（型絵染）
・武井 武雄（たけい・たけお，1894－1983）童画家，版画家，童話作家
・谷中 安規（たになか・やすのり，1897－1946）版画家
・橋本 興家（はしもと・おきいえ，1899－1993）版画家
・初山 滋（はつやま・しげる，1897－1973）童画家，版画家
・平塚 運一（ひらつか・うんいち，1895－1997）版画家
・日和崎 尊夫（ひわさき・たかお，1941－1992）版画家
・古沢 岩美（ふるさわ・いわみ，1912－2000）洋画家
・前川 千帆（まえかわ・せんぱん，1888－1960）版画家，漫画家
・棟方 志功（むなかた・しこう，1903－1975）版画家
・若山 八十氏（わかやま・やそうじ，1903－1983）版画家

注・引用文献

1）斎藤昌三．斎藤昌三著作集　第１巻　蔵書票とその歴史．後藤憲二編．立川，八潮書店，1980.12，209p.図版56枚．　参照はp.111.
2）内田市五郎編著．西洋の蔵書票：バイロスとアールヌーヴォー．東京，岩崎美術社，1982.3，23p.図版40枚．（双書美術の泉，51）参照はp.1.
3）日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．図書館情報学用語辞典．第５版．東京，丸善出版，2020.8，ix,287p．引用はp.138-139.
4）内田市五郎編著．フィンゲステン・エロスの夢：アール・デコの蔵書票．東京，岩崎美術社，1989.3，99p.（双書美術の泉，76）参照はp.80.
5）内田市五郎，中井昇編．現代［書票］情報事典．東京，つくし館，1989.9，198p.
6）気谷誠．“蔵書票のパラドックス”．書物愛：蔵書票の世界．日本書票協会編著．東京，平凡社，2002.1，p.154-159.（平凡社新書，125）；気谷誠．愛書家のベル・エポック：アンリ・ベラルディとその時代．東京，図書出版社，1993.10，226p.（ビブリオフィル叢書）
7）樋田直人．蔵書票の魅力：本を愛する人のために．東京，丸善，1992.2，ix,225p.（丸善ライブラリー，40）　参照はp.55-63.
8）蔵書票の作家の生没年と経歴は、コトバンク（https://kotobank.jp/）、版画ネット（https://www.hanganet.jp/index.html）、NDL ONLINE（https://ndlonline.ndl.go.jp/）の情報を参照した（URL最終確認：2023-09-17）。
9）倉敷ぶんか倶楽部編．志茂太郎と蔵書票の世界：日本書票協会の創設者．岡山，日本文教出版，2018.10，156p.（岡山文庫，311）引用はp.110.
10）石井桃子 文，初山滋 絵．おそばのくきはなぜあかい：にほんむかしばなし．東京，岩波書店，1954.9，55p.（岩波のこどもの本，８）
11）木下順二 文，初山滋 絵．ききみみずきん．東京，岩波書店，1956.12，59p.（岩波のこどもの本，18）
12）竹迫祐子編．初山滋：永遠のモダニスト．新装版．東京，河出書房新社，2019.8，159p.（らんぷの本）　参照はp.81-85.；初山滋．ちひろ美術館編．初山滋：見果てぬ夢．東京，平凡社，2023.3，143p．参照はp.113-115.
13）浜田廣介 作，初山滋 画．キリスト物語．東京，冨山房，1982.12，544p.
14）初山滋．山のもの山のもの：ゑほん．東京，よるひるプロ，2014.7，18p.
15）上笙一郎．初山滋奇人童画家．鎌倉，港の人，2016.1，213p.

畦地 梅太郎

武井 武雄

初山 滋

恩地 孝四郎

棟方 志功

店内展示　第十七回
蔵書票の世界

芹沢 銈介

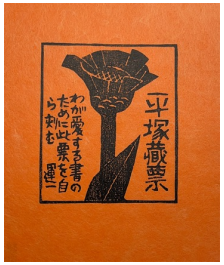
斎藤 清

谷中 安規

10月9日（月）～11月30日（木）

川上 澄生

池田 満寿夫



平塚 運一

前川 千帆

ブックセンター・キャンパス　BOOK CENTER CAMPUS
古書店内 小展示 不定休 ご来店の際は　☎ 029-851-8100 まで
〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3-10-12　campus.okada@gmail.com

筑波大学 図書館情報メディア系 講師　大庭一郎

はじめに

今回は、様々な蔵書票が展示されています。そこで、蔵書票の概要を説明した上で、幾つかの展示資料について、紹介したいと思います。

蔵書票の概要

書物を保護して所有主を明らかにする方法として、東洋では蔵書印が用いられ、欧米では方寸大の紙札に刷った蔵書票が使われてきました[1]。蔵書票とは、ラテン語のエクス・リブリス(ex libris,「誰それの蔵書」の意味)や英語のbookplateの訳語です[2]。蔵書票は、「所有者を明らかにするために本の見返しに貼付する、小さな紙片。書票ともいう。一般に所有者名とともに紋章、標語、金言、図柄、絵などが美しくデザインされている。15世紀の中頃ヨーロッパで始まり、日本には明治期にもたらされた。特別のコレクションや個人の愛蔵書などに使われることが多い」[3]ものです。

1989年に、英文学者の内田市五郎は、今日の蔵書票には、実用蔵書票と観賞用蔵書票の2種類があると記しました。内田は、蔵書票の本来の目的は、日本の蔵書印と同じく所有者を明らかにする実用的なものであり、今でも米国の大学図書館などではその種の実用蔵書票が使われていて、凸版印刷やオフセット印刷でデザインに工夫をこらしたものがある、と指摘しています。さらに、書物の装釘、用紙、活字に工夫をこらした豪華本があるように、蔵書票にも鑑賞の対象となりうる美術的蔵書票(観賞用蔵書票)があり、美術版画と同じように，銅版、木版、石版などの手作業で作られ、エディションナンバーを入れる制作者もいる、と述べています[4]。内田が編集・刊行した『現代[書票]情報事典』には、1989年当時の世界26か国の蔵書票作家とその作品が収録されています[5]。

2002年に、美術史家の気谷誠は、愛書家の王と呼ばれていたフランスのアンリ・ベラルディ(Henri Béraldi, 1849－1931)の言葉として、「愛書家の真価は蔵書票の寸法に反比例する。」(ベラルディの法則)を紹介しています。19世紀後半、自由なスタイルの蔵書票が普及し始めると、蔵書票が次第に大きくなって、そのデザインが奔放になり、書物自体の美観を損ねる恐れが出てきました。そこで、ベラルディは、近代の愛書家が愛書趣味と称して巨大化した蔵書票を書物に貼りつけることを揶揄し、シンプルで小柄な蔵書票を推奨していました[6]。

蔵書票の愛好者の団体としては、日本書票協会(Nippon Exlibris Association:NEA)や国際書票連盟(Fédération Internationale des Sociétés d'Amateurs d'Ex-Libris:FISAE)が挙げられます。

海外の図書館の蔵書票

1854年開館のボストン公共図書館(Boston Public Library)は、無料・一般公開・法的根拠による公費運営という近代公共図書館の理念を初めて実現した図書館として有名です。展示資料には、ボストン公共図書館の蔵書票が40枚程含まれています。ある蔵書票には、「THE PUBLIC LIBRARY OF THE CITY OF BOSTON LONGFELLOW MEMORIAL COLLECTION.FROM THE FUND GIVEN BY VISTORINE THOMAS ARTZ 1896」(ボストン公共図書館のロングフェロー記念コレクション。1896年、ヴィストリーヌ・トーマス・アルツより寄付された基金より)と記されています。そして、灯された松明を左右に配置し、月桂樹の枝に囲まれた中に、ロングフェロー氏の肖像画が描かれています。

この他の公共図書館の蔵書票には、ロサンゼルス公共図書館(Los Angeles Public Library)等があります。一方、大学図書館の蔵書票としては、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(University of California at Los Angeles)、南カリフォルニア大学(University of Southern California)、プリンストン大学(Princeton University)、イェール大学(Yale University)等が含まれています。

日本の蔵書票

1992年に、蔵書票研究の第一人者の樋田直人は、日本の蔵書票の根源的な特徴として、多色摺板目木版の技法、色が豊富でカラフルなこと、和紙の使用の3点を挙げました。樋田は、日本独特の絵柄が美しくデザインされた蔵書票が諸外国の書票愛好家に愛されていると指摘しています[7]。

展示資料には、本資料裏面に記載の蔵書票の作家(五十音順)の作品が含まれています[8]。蔵書票の作家は、版画家だけでなく、絵本作家の梶山俊夫、童画家の武井武雄、童画家の初山滋などが含まれています。

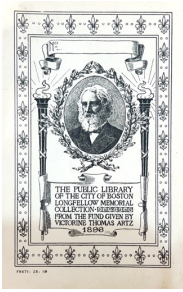
初山滋の蔵書票

童画家・版画家の初山滋(1897－1973)は、「生涯に渡ってひとつの画風にとどまることのない人」[9]でした。初山の描いた絵と意識せずに、「岩波のこどもの本」に収録された『おそばのくきはなぜあかい』[10]や『ききみみずきん』[11]の絵本を子供の頃に楽しんだ方も多いと思います。さらに、初山は、1957年4月から1979年3月までの22年間、光村図書出版が刊行した小学1～6年生までの全ての国語教科書の表紙を描いていました[12]。初山滋の作品は現代でも人気があり、1930年に挿絵を描いた『キリスト物語』[13]、1947年頃刊行した絵本『山のもの山のもの』[14]が復刊されています。2016年に、児童文化史研究家の上笙一郎は、初山滋の伝記を記しています[15]。

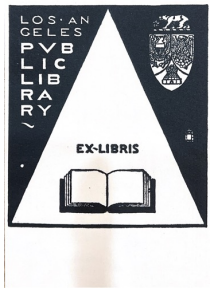
展示資料には、初山滋が作った蔵書票が4枚あります。初山の蔵書票は、『おそばのくきはなぜあかい』や『ききみみずきん』の絵柄を思い起こさせます。

おわりに

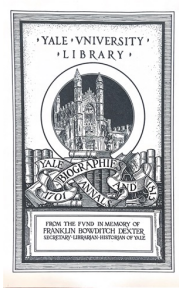
今回の店内展示を通じて、蔵書票の紙面に描かれた豊かな絵柄に親しんで頂くと同時に、初山滋の作品や関連図書を再読して頂けますと幸いです。



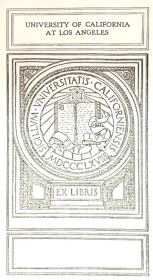
ボストン公共図書館



ロサンゼルス公共図書館



イェール大学

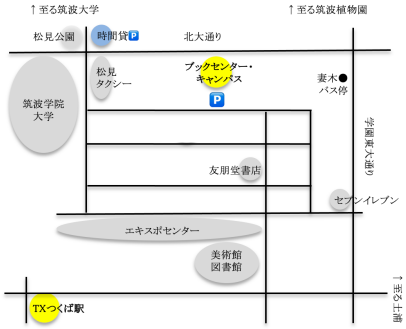


カリフォルニア大学

初山 滋

【アクセス】

圏央道つくばICから約6km /常磐道桜土浦ICから約7km/
常磐道谷田部ICから約10km

学園東大通り（県道24号）妻木交差点と松見公園交差点の間 学園北大通り（県道244号）沿い

つくばエクスプレス つくば駅から1.1km
徒歩15分前後/最寄りバス停：妻木（saiki）
駐車場：店舗裏3台